

6 林 業

項 目	作 業 内 容
<p>(1) 枝打ちの目的</p> <p>(2) 枝打ちの時期</p> <p>(3) 枝打ち実施の注意点</p>	<p>(今月の作業ポイント) 適正な枝打ちによる材質管理</p> <p>枝打ちは下刈や間伐のように健全な山作りのために必ず行わなければならない作業ではなく、次のような目的により必要に応じて行う作業である。</p> <p>ア 完満・均一な年輪幅の良質材を生産する。 イ 遅くまで枯れ枝が残るヒノキでは、大径材生産を目指す上で、材価の低下を招く死節の発生を防止する。 ウ 林内を明るくして、下層木の成長を促す。 エ 無節材はあくまで副産物である。</p> <p>樹木の樹液流動期（4～9月）は、樹皮が剥げて傷口が大きくなり、枝打ち後の巻込みが遅れたり腐りが入ったりする。このため、枝打ちの適期は10月から早春の3月までとなる。特に、樹液の流動開始直前の2月下旬から3月が最も良いとされている。</p> <p>なお、厳冬期は枝打ち後の傷口が凍るおそれがあるため避けるのが無難である。</p> <p>枝打ちには多くの労力がかかるとともに、樹木にとっては幹に傷を付けられることになるので、実施に当たっては次の点に注意する（図1）。</p> <p>ア 生産目標を定めて適切に実施する。例えば、10.5cmの無節柱材生産を行う場合には、2～3年ごとに、幹の直径が6cm程度の位置まで打ち上げる。</p> <p>イ 一度に高くまで打ち上げると成長が著しく悪くなり、巻込みが遅くなって腐りや変色の原因となるので、1回に打ち上げる高さは1.5m以下に抑える。</p> <div data-bbox="526 1523 1276 2004" style="text-align: center;"> <p>枝打ちする長さ 1.5 m 枝下直径 8～9 cm</p> <p>枝打ちする長さ 1.5 m 枝下直径 6～7 cm</p> <p>12cm 角柱材目標 10.5cm 角柱材目標</p> </div>

図 1 枝打ち実施の注意点

項 目	作 業 内 容
(4) 枝打ちの方法	<p>特に、ヒノキは一度に高く打ち上げると樹勢が弱まり、病虫害等により枯死する場合もあるので注意が必要である。</p> <p>ウ できれば、枝打ち時に残す枝のうち谷側に付いた枝や太い枝の先端をナタやカマで切り払っておくと、幹の曲がりを抑制し、より通直で年輪幅の均一な材が生産できる。</p> <p>エ 曲がり木、病虫害等による被害木、間伐候補木等、枝打ちによる材価の上昇が期待できない木は実施しない。</p> <p>オ 3mの元玉材が取れる高さまでは必ず枝打ちを行う。なお、原木市場で有利に売するためには、枝打ち実施年、枝打ち高等の記録を残しておく。</p> <p>カ 太い枝の枝打ちや、幹に傷を付けるなど不適切な枝打ちをすると、切口や傷口を介して、材の内部に淡黄褐色～灰褐色の着色を生じるボタン材(写真1、2)や腐りが発生し、材価が著しく低下する原因となる。</p> <p>キ 枝打ち後は、葉量の減少により成長が悪くなるため、成長の悪い(地力の低い)林分では実施しない。</p> <p>ク 林縁の2～3列の木については、林内乾燥や風害防止の観点から、林内に比べて軽い枝打ちに止める。</p>
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="480 1070 831 1424"> </div> <div data-bbox="991 1070 1342 1424"> </div> </div> <p>写真1 ボタン材</p> <p>写真2 生枝の枝打ちによるボタン材</p> <p>枝打ちを実施する場合、残枝長を短く、幹に傷を付けないように良く切れる刃物で、切り口は平滑に、生産目的、枝の形状に応じた箇所を切断するようにする(図2)。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-end;"> <div data-bbox="512 1671 647 1944"> <p>A 素直な枝</p> </div> <div data-bbox="775 1671 903 1944"> <p>B 枝隆の発達した枝</p> </div> <div data-bbox="1015 1671 1142 1944"> <p>C 生長の旺盛な枝</p> </div> <div data-bbox="1238 1671 1366 1944"> <p>D 生長の低下した枝 または枯枝</p> </div> </div> <p>枝の切断位置 a: 適 b: 不適 (BとCは幹に変色発生, Dはその危険性あり)</p> <p>変色を避け、かつ残枝を短くする枝の切断位置 (藤森隆郎)</p> <p>図2 枝打ちの方法</p>

項 目	作 業 内 容
(5) 枝打ち用 刃物	<p>枝打ちに使用する主な刃物には、カマ・ナタ・ノコがある。</p> <p>ア カマは枝打ち専用カマを用いること。比較的小さい枝を能率的に打つことが出来る。</p> <p>イ ナタは枝打ち専用ナタを用いること。やや大きい枝に適しているが、他の道具に比べ高度な技術を必要とする。</p> <p>ウ ノコは枝打ち用ノコや、近年ではパイプソーを用いることが多い。能率はやや落ちるが、高度な技術は必要なくボタン材になりにくい特徴がある。</p> <p>エ なお、いずれの刃物でも、良く切れるよう手入れをしてから使うことが肝要である。</p>